医学と生物学 (Medicine and Biology) Vol. 164 (1): i1_Oj03, 2024

[原著]

看護系大学生における高齢者の性・セクシュアリティに関する講義前後での認識の変化 -KH Coder によるテキストマイニングを用いた分析-

穴井美恵 [1)]、小倉由紀子 [2)]

1) 名古屋学芸大学看護学部
2) 聖泉大学看護学部

要旨

本研究の目的は，看護系大学生が高齢者の性・セクシュアリティについて，講義前後でどのような認識の変化があったかを明らかにすることである。A 大学 2 年生 105 名のレポートをテキストマイニングで分析した。結果，講義前では分析に用いた総抽出語数 2276，異なる語数 414 であった。講義後では分析に用いた総抽出語数 9608，異なる語数 876 であった。サブグラフでは，講義前が【加齢に伴って性欲は低下するイメージ】【性の関心の低下と性機能の衰え】【男女の関係性の変化】【自己の先入観や価値観で捉える高齢者像】【若者世代との比較による高齢者の捉え方】の 5 つであった。講義後が【高齢者にとって重要な性的欲求の理解】【高齢者の性に対する考え方の変化】【高齢者の愛情表現】【高齢者の心理的側面の変化】【高齢者にとって健康な生活のあり方】【動機づけとなった講義の位置づけ】【幅広い概念であるセクシュアリティの理解】【高齢者の性とセクシュアリティに対する学生の意識の拡大】【高齢者のセクシュアリティを意識した看護の視点】の 9 つであった。講義前には加齢による生殖機能の衰退に関する記述が多かったが、講義後には高齢者の性・セクシュアリティに対する認識の広がりがうかがえ、高齢者の特徴の理解や性・セクシュアリティの視点を踏まえた看護のあり方について考えることができていた。

キーワード：看護系大学生、高齢者、性・セクシュアリティ、KH Coder、テキストマイニング

Ⅰ．緒言

我が国は超高齢社会を迎え，人生 100 年時代と言われるようになり，高齢者の生活の質（QOL）の向上が大きな課題とされている。QOL の鍵となる 1 つに，性，すなわちセクシュアリティがある。人間にとってセクシュアリティは生き生きと生きる意欲の原動力であると言われるもので，特に老年期におけるセクシュアリティは，その人の存在に重要な意味をもつ生きがいや幸福感と密接に関連している。しかし，医療現場においては心身の健康は重要視されても，実際の臨床場面ではしばしば対応に苦慮する性に関わる事柄は無視されがちである。とりわけ高齢者の性の問題となると，スタッフ個々人の否定観のみならず，集団としての高齢者の性に対するタブー視がある（1）と報告されている。

連絡先：穴井美恵
〒460−0001　愛知県名古屋市中区三の丸４丁目１番１号
名古屋学芸大学看護学部

E-mail：anai@nuas.ac.jp

2023 年 8 月 11 日受付
2023 年 9 月 29 日受理

表１　授業概要

名称	老年保健活動論（1 単位　15 時間）1 コマ 90 分
授業形態	コロナ禍の為 ZOOMによる遠隔授業
テーマ	老年期にある対象の健康を支援し、健康的な生活を維持するために必要となる知識・技術を習得できる。
授業計画	第 01 回　老年期の健康行動、高齢者の社会活動・社会生活 第 02 回　ヘルスケアシステムとヘルスプロモーション 第 03 回　高齢者における保健医療福祉の変遷、介護保険制度 第 04 回　高齢者施設の特徴 第 05 回　高齢者施設における看護 第 06 回　高齢者が生活する場 第 07 回　高齢者の生活と家族、在宅における看護 第 08 回　高齢者疑似体験　演習、レポート作成
内容	第 01 回　老年期の健康行動、高齢者の社会活動・社会生活 学習目標： １．老年期の健康行動について考える。 ２．高齢者の社会生活について考える。 ３．高齢者の社会活動が分かる。

高齢者の性・セクシュアリティに関する先行研究では，高齢期における性の多様性に関する報告（2，3）や高齢者の性感染症に関する研究（4），皮膚・排泄ケア認定看護師によるセクシュアリティに関する治療的コミュニケーション技術　会話分析による抽出（5）などが報告されている。

看護学生のレポート分析については，実習や授業後のレポート分析について多数の報告はあるが，講義前後の段階で，高齢者の性・セクシュアリティについての認識の変化を比較検討している報告は少ない。

看護学生は実習において高齢者を受け持つ機会が多い。看護過程を展開するうえで，高齢者の性・セクシュアリティに関するアセスメントでは，多くの学生が出産の有無や孫の存在の有無の記載にとどまっている。超高齢社会を迎え，平均寿命が延伸している我が国において，高齢者にとっての性・セクシュアリティについての認識を学生が正しく理解し，看護に活用できる人材を育成していく必要がある。

そこで本研究の目的は，看護系大学生が高齢者の性・セクシュアリティについて，講義前後でどのような認識の変化があったかを明らかにすることである。本研究によって，学生がどのように高齢者の性・セクシュアリティを捉えているかを明らかにできれば，今後の看護基礎教育における高齢者の性・セクシュアリティに関する学習の必要性や今後の学習課題を検討することができ，高齢者の健康を考える上で，高齢者の性・セクシュアリティの視点から，高齢者の QOL 向上や生きがいについての支援の在り方を考える機会となりえる。

Ⅱ．方法

１．研究デザイン

質的研究

２．対象

2022 年度に A 大学で老年保健活動論を履修した看護学科 2 年生在籍学生 107 名のうち，本研究に同意が得られた学生 105 名を研究対象とした。

３．授業の概要

表 1 に授業の概要を示した。

老年保健活動論は 2 年次前期に開講した。本授業は，老年期にある対象の健康を支援し，健康的な生活を維持するために必要となる知識・技術を習得できることを目的とした。第 1 回目の講義において，「老年期の健康行動について考える」ことを目標とし，『高齢者の健康』の単元の中で，≪高齢者の性・セクシュアリティ≫について講義を行った。講義内容としては，性・セクシュアリティの意味，老年期における性の意味，加齢に伴う性機能の変化，性生活と健康，ケアの視点であり，身近な事例としては，学生の実習での体験や教員の臨床経験から，高齢者の性にまつわるエピソードを提示しながら説明を行った。

４．データ収集の方法

≪高齢者の性・セクシュアリティ≫について，講義する前の段階でどのように思っているかを自由記載してもらい，記述した内容を提出してもらった。そして，当該授業が終了した時点で，学生が≪高齢者の性・セクシュアリティ≫について，何を学んだか，印象に残っている内容，感じたことなどを自由記載してもらい，記述した内容を提出してもらった。

表2　講義前後の頻出語の比較

講義前			講義後		
№	抽出語	出現回数	№	抽出語	出現回数
1	思う	59	1	性	207
2	性	51	2	高齢	202
3	高齢	40	3	思う	134
4	考える	22	4	セクシュアリティ	80
5	浮かぶ	22	5	考える	75
6	イメージ	21	6	衰える	73
7	女性	19	7	機能	59
8	機能	14	8	講義	46
9	意識	13	9	人	45
10	人	13	10	聞く	41
11	性欲	13	11	知る	36
12	感じる	12	12	感じる	34
13	若い	12	13	大切	30
14	男性	12	14	学ぶ	28
15	閉経	11	15	人間	28
16	関係	9	16	理解	28
17	男女	9	17	老年	28
18	低下	9	18	自分	27
19	衰える	8	19	男性	27
20	年齢	7	20	持つ	26

５．分析方法

分析は，フリーソフトである KH Coder（6～8）を用いて計量テキスト分析を行った。分析の全過程を通じて，解釈が先入観にとらわれていないか，内容の妥当性を欠いていないかについて，研究者間で確認・照合して分析の厳密性の確保に努めた。

１）頻出語の抽出

記載のあった 105 名の文章を電子テキスト化した。形態素分析の試行を繰り返し，抽出語の区切りを確認し，分割される可能性がある複合語をコマンドで自動処理によって検出し，頻出語を抽出した。分析に必要と考えられる言葉について「語の取捨選択」画面で強制抽出することで，研究者の思い込みでなく，効率よく研究意図に沿った分析を行った。

２）サブグラフの抽出

出現パターンの似通った語を線で結んだネットワークを描いた。共起の程度が近接している単語は，頻度と共起の類似パターンと認識され，サブグラフが得られた。それぞれのサブグラフを生成する語句について，原文においてどのように記載されているのか文脈を探り，命名を行った。

６．倫理的配慮

本研究は大学研究審査委員会の承認を得た（番号：579）。学生への説明は，当該授業の成績評価が発表された後に行った。研究対象者に研究目的，方法，研究協力は自由意思によること，協力するか否かによって今後の成績などの学業の評価に一切の不利益が生じないこと，得られたデータは個人が特定されないように匿名とし，研究以外の目的で使用されることがないことなどを文書と口頭で説明した。研究参加同意書の提出をもって研究への同意を確認した。収集したデータについては個人が特定できない形で分析を行い，研究以外の目的で使用されることがないように研究対象者の権利を保障した。

Ⅲ．結果

１．頻出語の抽出

「高齢者の性・セクシュアリティ」について自由記載の文字数を単純集計したところ，講義前では分析に用いた総抽出語数は 2276，異なる語数は 414 であった。講義後では分析に用いた総抽出語数は 9608，異なる語数は 876 であった。講義前後の頻出語上位 20（名詞，形容詞，動詞）を表２に示した。

２．高齢者の性・セクシュアリティの講義前後における学生の学びの変化

表３に高齢者の性・セクシュアリティの講義前後における学生の学びの変化を示した。サブグラフを【　　】で示し，各サブグラフに対する抽出データは「　　」の中に記載した。

講義前の【加齢に伴って性欲は低下するイメージ】と【性の関心の低下と性機能の衰

表3. 高齢者の性・セクシュアリティの講義前後における学生の学びの変化

講義前サブグラフ		講義後サブグラフ
【加齢に伴って性欲は低下するイメージ】 「高齢になるほど異性に対する意識や性的欲求などが少なくなる」 「身体機能の低下やホルモンの低下により、性に関しては積極的ではない」	変化	【高齢者にとって重要な性的欲求の理解】 「生きるエネルギー・親密な関係性の欲求・癒しとして性欲を持っていることがわかった」 「性と聞いたら生理的性欲のイメージが大きかったが、今回の講義を聞いて高齢者は心理的欲求が大きいことを知った」
【性の関心の低下と性機能の衰え】 「性機能が衰えるため、性的欲求もほぼなくなる」		【高齢者の性に対する考え方の変化】 「生理的欲求よりも心理的欲求の方が重要視され、、高齢者にとっての生きるエネルギーになったり、親密な関係性の欲求で会ったり、癒しになるということも考えたことがなかったので、今回で大きく考え方が変わった」
【男女の関係性の変化】 「男女は若いときほど区別されなく高齢者として一括りにされがちだと思う」 「男性・女性の区別をあまりしなくなっていくイメージ 」 「高齢者は男女を意識せずみんなで仲良くしているイメージ」	変化	【高齢者の愛情表現】 「高齢者が異性への関心を保持し、愛されたい、触れ合いたいと願い、自らの男性性や女性性を大切に扱われたいと思うことは健全であるということが今回の講義を通してわかった」
		【高齢者の心理的側面の変化】 「高齢者は、心理的に孤独を感じることが多いため、社会や人との繋がりをもとめるという意味では、高齢者とセクシュアリティは関係の深いものだと感じた」
【自己の先入観や価値観で捉える高齢者像】 「高齢者の性は少し生々しいと感じた」 「高齢者は私たちよりも、男性女性という枠組みに対して敏感でない気がすると感じた」 「歳をとってもジェンダー感は存在すると思うし、女性は女性として、男性は男性としての考えを持つ」	変化	【高齢者にとって健康な生活のあり方】 「高齢者にとって豊かな性生活を営むことは、生きがいとなり健康の維持につながり、生活の質を高めることにおいてとても重要な役割だと学ぶことができた」 「今まで高齢者の性についてちゃんと考えたことがなかったが、性機能や心機能など多くの機能低下が見られるのに対し、老年期においてもセクシュアリティは衰えず保持されることを知り、老年期の健康生活と性は密接に関係していることが理解できた」
【若者世代との比較による高齢者の捉え方】 「若い人よりも身体面において活動的ではない 」 「性の問題というと若い人たちのことしか思い浮かばない」 「年齢は重ねても性に関しては男女ともにあまり今と変わらない」		

え】のサブグラフが，講義後では【高齢者にとって重要な性的欲求の理解】【高齢者の性に対する考え方の変化】に変化した。また，講義前の【男女の関係性の変化】が，講義後では【高齢者の愛情表現】【高齢者の心理的側面の変化】に変化した。さらに，講義前の【自己の先入観や価値観で捉える高齢者像】【若者世代との比較による高齢者の捉え方】が，講義後では【高齢者にとって健康な生活のあり方】に変化した。

3．高齢者の性・セクシュアリティの講義後における学生の学びの拡大

表４に高齢者の性・セクシュアリティの講義後における学生の学びの拡大を示した。サブグラフを【　　】で示し，各サブグラフに対する抽出データは「　　」の中に記載した。

講義後に新たに追加されたサブグラフとしては，【動機づけとなった講義の位置づけ】【幅広い概念であるセクシュアリティの理解】【高齢者の性とセクシュアリティに対する学生の意識の拡大】【高齢者のセクシュアリティを意識した看護の視点】の４つが挙がった。

表4．高齢者の性・セクシュアリティの講義前後における学生の学びの拡大

【動機づけとなった講義の位置づけ】
「年を重ねたからといって人を愛し愛されたいと思うことや触れたいと思うことは全くおかしなことではない」 「人間的なつながり、またその間に生まれる感情、人間関係の中での社会的・心理的側面、その背景こそがセクシュアリティだと理解した」
【幅広い概念であるセクシュアリィティの理解】
「人間であれば、他者とのつながりや友情などが欲しいと思うのは年齢に関わらずみんなに存在する気持ちだと思った。また性は年齢で決めてはいけないと感じた」 「セクシュアリティの意味に他人との人間的な繋がりや愛情、人間関係における社会的・心理的側面やその背景にある生育環境なども全て含める幅広い性の概念などと、セクシュアリティが様々な意味を持っていることが分かった」
【高齢者の性とセクシュアリィティに対する学生の意識の拡大】
「私自身高齢者の性と聞かれたとき性器や性行動の話としか思っていなかったので、他人との人間的つながりや友情・思いやりなど幅広い視点が含まれると知り驚かされました」 「性＝生殖活動という認識があったので、そもそも性やセクシュアリティと高齢者は無縁なことだと思っていた」 「高齢者になっても性の意欲があるのはおかしいのではなくて、個々で違う、何もおかしいことではない、ということを多くの人に分かってもらいたい」
【高齢者のセクシュアリティを意識した看護の視点】
「老年看護実習においても、アセスメントで性に関することは生殖機能という狭い括りで見るのではなく、人との繋がりや愛情、思いやりなども含めた広い意味での性として捉えていこうと思う」 「高齢者は、孤独感を感じることが多い。孤独感を和らげるにも、セクシュアリティは重要な役割を果たすので、セクシュアリティについての看護も重要なのだと感じた」 「今までは考えたこともあまりないが、確かに歳は関係なくセクシュアリティは存在し、看護の場面でも配慮することの重要性を再認識した」 「看護においてでも、高齢者という枠組みを先に意識してしまうことが多いのではないかと考える。その前に、女性である。男性である。という意識があれば、羞恥心を抱かせず、尊厳を守る看護ができるのではないかと考えた」

Ⅳ．考察

１．頻出語の抽出

「高齢者の性・セクシュアリティ」について自由記載の文字数を単純集計したところ，講義前は高齢者の性・セクシュアリティについての認識が乏しく，抽出語の広がりが見えなかった。多くは加齢による衰退的なイメージや身近な男女関係モデルを若者世代との比較で捉えていた。講義でのヒトの性やセクシュアリティ，老年期を理解するための学習により，講義後では分析に用いた総抽出語数及び異なる語数において大幅に増加し，高齢者にとっての性・セクシュアリティの重要性や高齢者の心理的側面の理解を深め，看護の視点を抽出できていた。木下ら（9）は，高齢者の性の講義における教育効果として，セクシュアリティの概念を教授することで，授業前の記述に多く見られた生殖機能や性的欲求などに限られない認識の広がりがうかがえたことを報告している。学生自身が異性との関係を考える年代であり，性・セクシュアリティについては関心があると予測する。自己の経験を踏まえ，講義を通して，高齢者の気持ちを考え，相手の性を尊重した看護の視点を持つことができていたと考える。

2．高齢者の性・セクシュアリティの講義前後における学生の学びの変化

<u>１）講義前【加齢に伴って性欲は低下するイメージ】【性の関心の低下と性機能の衰え】から講義後【高齢者にとって重要な性的欲求の理解】【高齢者の性に対する考え方の変化】への変化</u>

講義前には多くの学生が「高齢になるほど異性に対する意識や性的欲求などが少なくなる」などの認識をもっていた。木下ら（9）の研究において，「衰えている」「性の意識の希薄化」「生殖機能の低下」などの加齢に伴う衰退的な変化を表すものが半数

を占めていたと報告しており，本研究の【加齢に伴って性欲は低下する】や【性の関心の低下と性機能の衰え】などの結果と一致していた。性に関連した衰えでは生殖機能や性的欲求などに関連しており，学生は老年看護学概論等の既習科目の学修で得た加齢変化についての知識に基づいていたものと推測される。中には，「わからない」「考えたことはない」等の表記も多く，学生にとって「高齢者の性」が具体性を持たないことであると示された。高齢者との同居体験が少なく，「性」というテーマの特質上，学生にとって身近でないことは当然のことと言える。

しかし講義後には【高齢者にとって重要な性的欲求の理解】【高齢者の性に対する考え方の変化】に変化した。抽出データには「生理的欲求よりも心理的欲求のほうが重要視され，高齢者にとっての生きるエネルギーになったり，親密な関係性の欲求であったり，癒しになるということも考えたことがなかったので，今回で大きく考え方が変わった」で示されるように，高齢者にとって性的欲求の重要性を学ぶことができていた。

「性」がタブー視される我が国の文化の中で生まれ育つ学生たちにとって，看護専門職としての正確な知識を身につけることと併せて，自分自身の「性」，「高齢者の性」についての態度や価値観を振り返る機会も重要である。それらの知識を基礎としながら，老年期を生きる人々にとっての「性」の意味を理解できる教育が必要である。

<u>２）講義前【男女の関係性の変化】から講義後【高齢者の心理的側面の変化】【高齢者の愛情表現】への変化</u>

講義前には，「男女は若い時ほど区別されなく高齢者として一括りにされがち」「男性・女性の区別をあまりしなくなっていくイメージ」などの【男女の関係性の変化】の回答がみられた。木下（10）は，「『高齢者』『老年者』という言葉は，老いを生きる人々を非性的匿名集団の枠で囲み，男・女のイメージを貧困にしてきた」と老年者のケアの「脱性化」を指摘している。年齢を理由とする高齢者への否定的な偏見や差別的な見方をする学生の記述も見られた。高齢者の性に対する偏見や一元的な見方，脱性化する見方などエイジズムの存在がある。老年看護学概論にてエイジズムについて学習しているが，2 年次前期の段階では実際に高齢者とふれあう体験が少なく，高齢者を正しく理解することが不十分であることが予測される。

一方で，「高齢者は男女を意識せずみんなで仲良くしているイメージ」という回答も比較的多かった。柏木（11）は，男性としてでも女性としてでもなく，性を超えて人間として大事な心と力が加齢とともに発達し成熟すると述べている。身近な高齢者の存在や変化する社会通念・情報などから，学生の意識に影響を及ぼしていた可能性がある。

講義後には，「高齢者が異性への関心を保持し，愛されたい，触れ合いたいと願い，自らの男性性や女性性を大切に扱われたいと思うことは健全である」といった【高齢者の愛情表現】などの肯定的な記載内容に変化していた。また，【高齢者の心理的側面の変化】では，学生は高齢者が心理的に孤独を感じることが多いことを理解し，社会や人との繋がりを求める存在であること，高齢者を一括りで捉えるのではなく，一人一人の高齢者の状況を個別に理解していくことの必要性を学ぶことができていた。今後，高齢者との関わりの中で，個別性のある一人の人間として対象を尊重してケアできる人材育成に努めていく必要がある。

<u>３）講義前【自己の先入観や価値観で捉える高齢者像】【若者世代との比較による高齢者の捉え方】から講義後【高齢者にとっての健康な生活のあり方】への変化</u>

学生は「高齢者の性は少し生々しいと感じた」や「私たちよりも，男性女性という枠組みに対して敏感ではない気がした」という記載が見られた。これは，【自己の先入観で捉える高齢者像】や【若者世代との比較による高齢者の捉え方】とし，高齢者の性を性行動として解釈した上での学生のイメージであると考える。大川（12）は，性については長くタブー視された歴史があり，高齢者の性においてはほとんど言及さ

れないままに，「老いたら性は枯れる」「高齢者は性とは無縁の存在」等の思い込みがあったと指摘している。従来，日本人は，年をとると性は枯れて老熟するという老年観を持っている。しかし，講義後では，「高齢者にとって豊かな性生活を営むことは，生きがいとなり健康の維持につながり，生活の質を高めることにつながる」という意見や「高齢者の性について，健康生活と密接に関係している」ことを学んでいた。人生 100 時代を迎え，生き生きと活躍している高齢者の生活実態や心情が抽出データに示され，高齢者にとっても「性」は健康で豊かな生活を送るための要因であることを再認識し，看護基礎教育においても教授していく必要があると考える。

また，「歳をとってもジェンダー感は存在すると思うし，女性は女性として，男性は男性としての考えを持つ」という意見もあった。小山田ら（13）は，入学当初の学生は，男女平等意識はもっているものの，内面的にはステレオタイプ的な意識を強く持っていると報告している。ジェンダーについての記載は，講義前の段階でのみ，1 名の学生にみられた。今後，ジェンダーについても正しい理解ができるように教授が必要である。

一方で学生は，「年齢を重ねても性に関しては男女ともにあまり今と変わらない」という認識ももっていた。これは性の肯定的なイメージと捉える。刀根ら（14）によると，看護学生は概ね高齢者のセクシュアリティについては理解を示し，肯定的にとらえている者が多かったと報告している。本研究において，講義前の段階では高齢者のセクシュアリティという表記は示されなかったが，講義前の段階からすでにセクシュアリティに関連した認識を持っており，「高齢者の性」に肯定的な理解やイメージを持つ学生もいた。講義後は【高齢者にとっての健康な生活のあり方】を意識し，生活の場でセクシュアリティをイメージする状況や高齢者をセクシュアリティという枠組みで観ることが多くなり，性差や個人差はあるものの，高齢者が「性」と無縁ではなく，セクシュアリティという広い概念で老年期を生きる人として理解できていたと考える。

<u>４）講義後に追加された４つのサブグラフについて</u>

学生は講義を通して，セクシュアリティが様々な意味を持つことなどを理解していた。高齢者の性を身体面でのみ捉えるのではなく，心理面・社会面をも含めたセクシュアリティとして捉えることの必要性を学べたものと考える。ヒトの性やセクシュアリティそして老年期を理解するための専門知識の学習は看護学生の認識にダイレクトに働く（15）ものであり，【動機づけとなった講義の位置づけ】としての学習の役割は大きいと考える。

また，講義後には「高齢者は，孤独感を感じることが多い。孤独感を和らげるにも，セクシュアリティは重要な役割を果たすので，セクシュアリティについての看護も重要」「尊厳を守る看護ができる」等の【高齢者のセクシュアリティを意識した看護の視点】を含む学びができていた。講義前の段階では加齢に伴う衰退的変化にとどまっていたが，講義を通して，高齢者の気持ちを尊重したり，状況を考えようとする態度が多くなっていた。学習を受けることで人間の【幅広い概念であるセクシュアリティの理解】が深まり，性認識は高くなる（16）。高齢者の性に関する知識が高いほど，高齢者の性に対しては寛容となり，肯定的態度をとるという報告もある（17）。高齢者の性・セクシュアリティをどう捉えるかは，高齢者を人格を持った人間としてどう観るかと関連することであり，人間の性・セクシュアリティについての理解が深まることは高齢者の性・セクシュアリティを尊重した援助実践に結び付くと考えられる。

「年を重ねたからといって人を愛し愛されたいと思うことや触れたいと思うことは全くおかしなことではない」「人間であれば，他者とのつながりや友情などが欲しいと思うのは年齢に関わらずみんなに存在する気持ちだと思った。また性は年齢で決めてはいけないと感じた」という記述があった。老年期に入っても，高齢者は年齢に相

応した性的欲求を基本として，人と人との密接なつながりを求めており，これはむしろ自然の行為として生じるものであることを学生は学んでいた。生きることとしての「生」，そして「性」はともに人の基本的欲求として捉えることができる。高齢者のセクシュアリティとは，人生そのものであり，生きる力の基盤として存在し，老年期を生きる人の人生を満ちたりたものにする基盤であることを学ぶことができており，【高齢者の性とセクシュアリティに対する学生の意識の拡大】がみられた。

日本は超高齢社会に突入していることからも，高齢者のセクシュアリティについて，年齢の区分の特徴や個々人の個人的要素を捉えたうえで関わることが必要である。高齢者のセクシュアリティは自己の存在価値を認識し，いくつになっても尊厳されるべきものである（17)。また，看護を担う者は，高齢者の生活を楽しく充実するように関わることが求められるが，性は生そのものであり，高齢者の性を尊重することが必要になってくる。看護者のセクシュアリティに関する知識が増し態度が自由になれば，高齢者の性的な問題に関わる看護ケアの質が向上するため（18)，看護基礎教育におけるセクシュアリティに関する教育は重要であると考える。

Ⅴ．結論

本研究は，看護系大学生が高齢者の性・セクシュアリティについて，講義前後でどのような認識の変化があったかを明らかにするために，学生の自由記載の内容をテキストマイニングの方法を用いて分析した。講義前には加齢による生殖機能の衰退に関する記述が多かったが，講義後には高齢者の性・セクシュアリティに対する認識の広がりがうかがえ，高齢者の性・セクシュアリティについての認識について肯定的に変化していた。生殖機能や性的欲求の衰退に限局せず，高齢者の特徴の理解や性・セクシュアリティの視点を踏まえた看護のあり方について考えることができていた。

講義でのヒトの性やセクシュアリティそして老年期を理解するための専門知識の学習が看護学生の認識に働き，講義前の記述に多く見られた生殖機能や性的欲求に限られない認識の広がりを持たせることができる。それにより，高齢者の性・セクシュアリティの重要性や心理的側面の理解を深め，看護の視点を導き出すことにつながる。講義の中で、生き生きと活躍している高齢者の生活実態や心情，高齢者の性にまつわるエピソードを示しながら共に考えることで，セクシュアリティという広い概念で老年期を捉えることができる。そのため，老年期を生きる人々にとっての「性・セクシュアリティ」の意味を理解できる教育方法や内容の検討が必要であると考える。

今後は高齢者に対する偏見を排除し，人間の性の本質的理解に繋げていく学習が必要である。

謝辞

研究にご協力していただいたＡ看護系大学看護大学生 105 名の皆様に心から感謝申し上げます。

文献

（１）松下年子，河口朝子，原田美智．ケアサービスを利用する高齢者の性および性的行動に関する経験と認識 看護職および介護職を対象としたインタビュー調査．アディクション看護．2020，17（1)，p.59-76.

（２）北島洋美，杉澤秀博．性的マイノリティ（LGB）高齢者の主観的生活課題．老年社会科学．2022，44（3)，p.242-255.

（３）田中将司．70 代ゲイ男性のナラティヴと時代背景．カウンセリング研究．2020，53（1)，p.39-51.

（４）今橋真弓，金子典代，高橋良介，他．名古屋市無料匿名性感染症検査会受検者における性感染症既往認識と検査結果．日本性感染症学会誌．2020，31 (1)，p.133-135.

（５）三木佳子，澤井尚子，高木良重，他．皮膚・排泄ケア認定看護師が実践するセクシュアリティに関する治療的コミュニケーション技術　会話分析

による抽出．日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌．2021，25（1），p.1-9.
（６）樋口耕一．社会調査のための軽量テキスト分析ー内容分析の継承と発展を目指してー．ナカニシヤ出版，2014，115-223p.
（７）武田貴美子，鈴木真理子，高野美穂．看護大学生の大学生活に関する要望：学生アンケートの自由記載の軽量テキスト分析．佐久大学看護研究雑誌．2020，12（3），p.203-212.
（８）末吉美喜．テキストマイニング入門 Excel と KHCoder でわかるデータ分析．オーム社，2019，p.1-232.
（９）木下香織，古城幸子．老年看護学講義「高齢者の性」の教育効果ー授業前後の看護学生の認識の変化ー．インターナショナル Nursing Care Research．2014，13（3），p.191-197.
（10）木下康仁．ケアの老いと祝福．勁草書房，1997，115p.
（11）柏木惠子．おとなが育つ条件ー発達心理学から考える．岩波新書，2013，179p.
（12）大川一郎．高齢者のこころとからだ事典．中央法規，2000，p.488-511.
（13）小山田信子，及川一枝，高林俊文．看護学生の臨地実習における性的困惑．東北大医短部紀要．2002，11（２），p.229-235.
（14）刀根洋子，大久保麻矢，杉田理恵子，他．高齢者のセクシュアリティに対する看護学生の認識．性とこころ．2012，４（2），p.176-182.
（15）筑後幸恵．看護短大生の性認識と看護援助ー講義前後の調査からー．埼玉県立大学紀要．2005，95（7），p.95-99.
（16）White CB,;“A scale for the assessment of attitudes and knowledge regarding sexuality in the aged” Archives of Sexual Behavior．1982，11(6)，p.491-502.
（17）森麻季．日本における高齢者のセクシュアリティの概念分析．埼玉医科大学看護学科紀要．2022，p.41-49.
（18）朝倉京子．セクシュアリティに対する看護者の知識/態度：文献的考察．看護研究．1999，32（6），p.447.

Changes in Perceptions of Elderly Sex and Sexuality before and after Lectures by Nursing College Students —Analysis using text mining by KH Coder—

ANAI Mie [1], OGURA Yukiko [2]

1) Nagoya University of Arts and Sciences Department of Nursing, Faculty of Nursing
2) Faculty of Nursing, Seisen University

Summary

The purpose of this study is to clarify college students' perceptions of elderly people's sex and sexuality changed before and after lectures. We analyzed the reports of 105 using text mining. As a result, before the lecture, the total number of extracted words used for analysis was 2276, and the number of different words was 414. After the lecture, the total number of extracted words used for analysis was 9608, and the number of different words was 876. In the subgraph, before the lecture, [Image of decreased sexual desire with age] [Decline in sexual interest and decline in sexual function] [Changes in the relationship between men and women] [Image of the elderly as perceived by self-prejudice and values] and [Perception of the elderly by comparison with the younger generation]. After the lecture, [Understanding important sexual desires for the elderly] [Changes in the way the elderly think about sexuality] [The expression of affection by the elderly] [Changes in the psychological aspects of the elderly] [How to live a healthy life for the elderly] [Positioning of motivational lectures] [Understanding of sexuality as a broad concept] [Expansion of students' awareness of sexuality and sexuality of the elderly] [Nursing's perspective on the sexuality of the elderly].Before the lecture, there were many descriptions about the decline of reproductive function due to aging, but after the lecture, we could see that the awareness of the elderly's sexuality and sexuality was spreading, and nursing care based on understanding of the characteristics of the elderly.

Keywords: Nursing college students, elderly, sex and sexuality, KH Coder, text mining